

自分らしく
生きるって？

多様な性を 理解する 教育

ドラマストーリー

春から中学生になり、制服を着て学校へ通う松本千明。しかしスカート履くのが嫌でたまりません。どうして女として生きなければいけないのか、こんな疑問を持つ自分は一体何者なのか――。両親にも言えず息苦しさを抱えた千明は「ハウレンソウカード」を手に入れます。



「制服のことで悩んでいます」とアプリで相談した千明。カウンセラーと面談し、からだの性だけではない、多様な性があることを知ります。そして自分の気持ちを両親に伝えることを決めました。



千明は、校長と担任の先生にもカミングアウトします。校長から「制服はズボンも選択できる」と提案されましたが、クラスで浮いてしまわないか悩み、どうすべきかわからなくなってしまいます。

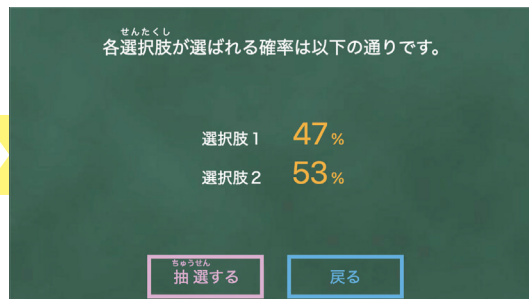


カウンセラーの勧めで、千明はトランスジェンダーの人に会い「クラスみんなに言う勇気がない」と相談。そして「カミングアウトしなくても、自分らしくいられればそれでいい」とアドバイスももらいます。



選択肢提示

児童生徒は、自分が千明だったら、クラス全員にカミングアウトするしないか考えます。展開1に進んだ場合と、展開2に進んだ場合、それぞれ異なるエンディングが用意されています。



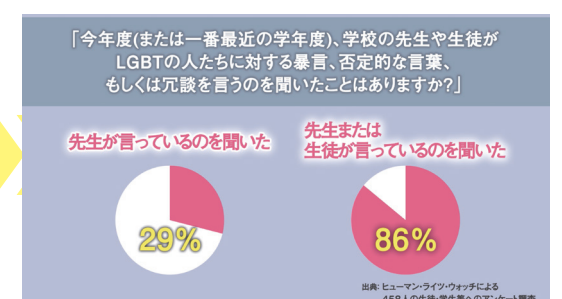
選択肢決定

どちらのストーリーに進むかは、児童生徒一人一人の選択を反映した確率に基づく抽選で決まります。



結果

展開1は、クラスみんなにわかってもらえて千明は精神的に楽になりました。展開2は、ズボンを履いて登校するのですが、両親や先生の理解を得た千明は、自分のペースで自分らしく生きたいと考えています。



解説

男と女だけではない多様な性について解説。LGBTの人はいじめに遭うことが多いという事実から、心ない言動で誰かを傷つけていないか、どうしたら互いに支え合って生きていけるか考える大切さを伝えます。

モデル指導案

対 象 〉 小学校高学年～中学校3年生

時 間 〉 45分～50分、1コマ

活用場面 〉 道徳、特別活動、総合的な学習の時間

〈 ねらい 〉

- 1 〉 多様な性*1について(LGBT*2等の概念や性の4要素等を)正しく理解する。
- 2 〉 ところとからだの性に違和感があるなどの悩みを抱えているときには、早めに適切な相手へ相談することで状況が改善されることを理解し、周囲にカミングアウト*3する際には、信頼できる人や相談機関に相談することが重要だということを理解する。
- 3 〉 本人に無断で、LGBTなどであることを他人に知らせるアウティング*4をしてはならないことを理解する。

時配	●学習活動	発問	○指導上の留意点、★使用教材
15分	1. カミングアウトするかについて考える ・授業までに授業タイトルを書く。 ・授業タイトルを読み上げ、このテーマに関するドラマを視聴した後ある選択をしてもらうことを伝える。		○導入に時間をかけず、すぐに動画を流す。 ★映像教材と映像再生機器（PC、DVDプレーヤー、大型テレビ、プロジェクター、スピーカー等）
10分	●動画1（約15分）を視聴する。 ●動画の内容を振り返る ・主人公の名前は？ ・カミングアウトの意味はわかりますか？		○動画では千明のクラスの雰囲気については詳しく描かれていないため、自分たちのクラスの雰囲気を参考にする。 ○個人の考えをワークシートに記入する。 ★ワークシート 
	みなさんが千明の立場だったらどちらを選ぶか決めて下さい。 予想される回答 する トランスジェンダー*5の方の話を聞いて勇気がでたから、クラスメートに理解されて受け入れてくれるかもしれないから、言ったら楽になると思うから、等。 しない 知られたくないから、いじめられそう/悪口を言われそうだから、仲のいい友達にだけカミングアウトすればいい、等。		○近くの席の者どうし、意見交換をする。 ○数名に意見を口頭で発表させ（ランダム指名を推奨）、選んだ選択肢ごとに要点を板書する。 ★抽選アプリ（ランダム指名）  ○生徒からは様々な意見が出ると予想されるが、安易に肯定や否定をせず発言の趣旨を丁寧に確認する。
5分	●動画2を視聴し、選択肢1と2を選んだ人数をそれぞれ確認する。その後、選択肢抽選を行う。		★抽選アプリ（選択肢抽選）

時配	●学習活動	発問	○指導上の留意点、★使用教材
5分	2. 選択の結果を振り返る ●抽選の結果に従い、動画3（選択肢1）もしくは動画4（選択肢2）を視聴する（動画は各約1分）。視聴後は児童生徒の様子を見て、何か言いたそうな者がいれば発言してもらう。		○必ず両方の動画をみるようにする。その際は生徒にもう一方の選択肢も見たいか確認するとよい。 ○二つの動画を見比べた上で「なぜ1と2の動画ではどちらも千明は自分らしくいられることができたのか」検討してもよい。このときどちらの動画も周りの人々の理解があったということが確認できればよい。
10分	3. 解説を聞く ●動画5（約3分）を視聴する。 （少し児童生徒の様子を見てから）ここまでの内容から感じたことや考えたことをワークシートに書いてください。 予想される回答 トランスジェンダーだとしても絶対にからかわない、カミングアウトされても今までと変わらずに接したい、同性同士の恋愛に気づいてもからかわない、カミングアウトされたときに適切に対応できるか不安だ、等。		○個人の考えをワークシートに記入する。 ★ワークシート  ○時間に余裕があれば近くの席の者どうし、書いたことを紹介させる。 ○時間に余裕があれば数名に意見を口頭で発表させる（ランダム指名を推奨）。余裕があれば、要点を板書する。
5分	4. まとめ（伝えてほしいこと） ・もしあなたや、あなたの周りの人が、性について悩みを抱えていたら、誰かに相談してほしい ・心ない言動や態度が、誰かを傷つけているようなことはないか考えてほしい ・どうしたら誰もが安心して過ごせるようになるのか、お互いに支えあっていけるのか考えてほしい ●性の悩みについての相談機関を紹介する。 ・ホウレンソウカードの利用		○性の多様性を正しく学び、性について違和感を感じたときは信頼できる相談機関に相談すること、周りの人からカミングアウトされたとしてもアウティングしないことの重要性を理解する。 ○「授業内容をまとめた資料」を配布する。 ★授業内容をまとめた資料 

*1～*5は次ページの用語解説を参照

 ワークシート、授業内容をまとめた資料、抽選アプリ、P38を参照

★ 抽選アプリ(選択肢抽選/ランダム指名) の使用方法是P37を参照

用語解説

「多様な性」についての基礎知識

授業を行う際には、「多様な性」についての正しい知識と適切な対応を把握しておくことが必要です。ここでは、授業で行う上での必要最低限の知識に加え、悩んだときにどうすればいいかの方法、教師・保護者の望ましい対応について説明します。

より詳しく知りたい方は、下記やP32の「多様な性に関するブックリスト」に掲載の書籍をご参照ください。

『LGBTってなんだろう？ーからだの性・こころの性・好きになる性』薬師実芳、笹原千奈未、古堂達也、小川奈津己(2014)合同出版

『先生と親のためのLGBTガイドーもしあなたがカミングアウトされたなら』遠藤まめた(2015)合同出版

*1「多様な性」とは

私たちは日頃、自分たちを「男」と「女」の二つの性に区別することが多くあります。しかし、からだの性、こころの性、表現する性、好きになる性、などそれぞれの要素のあり方は人によってさまざまです。

映像教材では、「性の立ち位置図」により多様な性のあり方を表しています。性のあり方は、主に4つの軸で考えることができます。

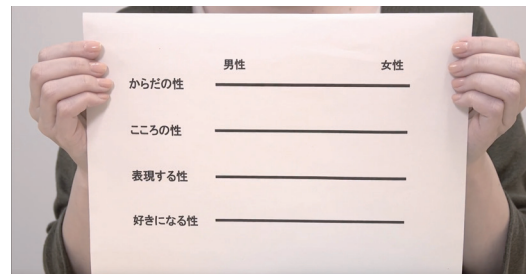
からだの性（生物学的性）
染色体、内外性器の状態等の性別を表す。

こころの性（性自認・性同一性）
どの性別にアイデンティティをもつかを表す。

表現する性（性表現）
服装や行動、振る舞いなどからみる「社会的な性別」を表す。

好きになる性（性的指向）
どの性別を恋愛の対象とするかを表す。

[参考] 認定NPO法人ReBit「中学生向けLGBT」(<https://rebitlgbt.org/project/kyozai/chugakko>)の「多様な性ってなんだろう？先生用ハンドブック」より（最終確認2018年11月）



主人公・千明は、からだの性は女性、こころの性は「女性ではないと思う」とし男性から中心まで広く丸をつけ、表現する性はこころの性よりも男性寄り、好きになる性は「まだわからない」と空欄にしました。

このように必ずしも男性・女性どちらかに丸をつける必要はなく、はっきりとしていなくてもおかしいことはありません。また、この「性の立ち位置図」は年月が流れることで変わることもありえます。

どこに位置するかよりも、性はグラデーションであり、一人一人異なっていてよい、ということに気づくことが重要です。

*2「LGBT」とは

残念ながら、これまでの社会では、多様な性のあり方が理解されてきませんでした。そのような状況において、世界中で性的少数者とされる人たちが、自分たちの存在をアピールするために使いはじめた「LGBT」という言葉があります。

日本でもよく耳にするようになったこの言葉は、女性として女性が好きである「レズビアン（L）」男性として男性が好きである「ゲイ（G）」同性も異性も好きである「バイセクシュアル（B）」

からだところの性に違和感がある「トランスジェンダー（T）」

これら4つの頭文字からできています。

性のあり方にはこの他にも、誰も好きにならない「アセクシュアル」や、こころの性や好きになる性ははっきりしない「クエスチョニング」などもあり、様々です。

また、マジョリティにも名前はない人、からだところの性に違和感のない人を「シスジェンダー」、異性を好きになることを「ヘテロセクシュアル」や「異性愛」といい、誰もが多様な性の中に位置づけられます。

*3「カミングアウト」とは

性別違和があることや、異性愛者ではないことを、周囲の人に告白することをカミングアウトといいます。クラスメートはもちろん、両親や教師、カウンセラーに告白することもカミングアウトにあたります。

カミングアウトするかしないかに正解はなく、誰に伝えるかも含め慎重な判断が必要です。カミングアウトし、理解者ができることで気が楽になったり、自分らしく振る舞えたりと、より過ごしやすい環境になる可能性があります。しかし、周りに受け入れてもらえなかった場合、孤立するかもしれないという負の可能性もあります。あくまでも、自分らしくあるための手段の一つであり、必ずカミングアウトしなくてはいい、ということはありません。

砂川秀樹氏は、「カミングアウトは、伝える側と伝えられた側との関係が作り直される行為だ」と述べ、その語源とともに以下のように説明しています。
「日本語に訳すと『外に出る（come out / coming out）』という意味になるこの英語は、『クローゼット（押し入れ）から出る』という、ゲイやレズビアンなどが使っていたスラングから来ている。そのため、英語では、自分がそうだと言わないでいる状態を、『クローゼットにいる（in the closet / closeted）』と表現する。（中略）よって、カミングアウトするということは、クローゼットに閉じこもっていた人が、そこから『外に出る』ということになる。」
『カミングアウト』砂川秀樹（2018）朝日新聞出版

*4「アウティング」とは

他の人が、LGBTなどであることをその人に了解なく別の人に知らせてしまう行為を「アウティング」と言い、絶対やってはいけないことです。実際にアウティングをされた人が苦しんでいるケースも生じています。

注意しなければいけないのは、例えば、教師が児童生徒からカミングアウトされた内容を、本人の了承なしに他の教師や保護者に知らせてしまうというもの「アウティング」にあたることです。他の教員や保護者に知らせる必要がある場合には、「過ごしやすいするために、他の先生/（本人の）保護者に説明し協力してもらい必要がある」というように理由を説明した上で、本人と十分に相談をし、了承を得ることが必要です。

*5「トランスジェンダー」とは

この授業では、「トランスジェンダー」の方々に焦点を当てています。

映像教材ではトランスジェンダーの鈴木麻斗さんに出演いただいています。鈴木さんはからだの性が女性・こころの性が男性の方で、NPO法人Medical G Linkで活動されています。

鈴木さんはからだところの性に違和感がある「トランスジェンダー」ですが、映像教材の主人公・千明と鈴木さんの「性の立ち位置図」が完全に一致することはありません。「トランスジェンダー」と一口にいっても、一人一人の性のあり方は異なります。

またトランスジェンダーの場合、性自認（こころの性）と性的指向（好きになる性）が一致すれば、同性愛者となる場合もありますが、性自認と性的指向に相関関係はありません。

指導上の留意点

授業プログラムの目的

この授業プログラムでは、多様な性について児童生徒が理解し、自らの性のあり方について悩みをもつことがあったときに周囲や相談窓口に相談できるようにすることを第一の目的としています。相談をすることで、理解者ができて安心し、状況を改善するための適切な対応を考えることもできます。さらに一人でも多くの人が多様な性について学び考えることが、「性に悩みを抱えている」児童生徒たちを受け入れる環境を整えることにつながります。

また、この授業は一部の「性に悩みを抱えている」児童生徒たちだけのためのものではありません。主題でもある「自分らしく生きて？」ということは多くの人が直面する問いです。これまでの時代よりも多様な生き方が可能になりつつある今日、自分らしく生きようとしたとき、性に関することだけでなく「マイノリティ」とされる立場にある人と接する機会も、自身が同様の立場になる可能性も十分にあります。多様な性を切り口に、自分と異なるからという理由で他者を排除するのではなく、他者を知り、共に生きていくためにはどうしたら良いのかを考えることは、どの児童生徒にも大切なことだと考えられます。

授業を通して「誰もが安心して過ごせるようになるのか、お互いに支えあっていけるのか」について考えていただけることを願っています。

授業者の留意点

教室内に性について悩んでいる児童生徒がいる可能性が高いという前提を持ち、常に「いないのではなく言えないだけであること」を意識し、不用意に傷つける様な発言をしないように心がけてください。授業中に児童生徒から、そのような発言が出たときには、適切にフォローします。（具体的には、次の「児童生徒の反応への対応」を参考のこと）

授業を通して、一人一人様々な個性があること、その上で互いを尊重しあうことがいかに大事なことを強調するよう心がけてください。

授業を行う際は、学校長はじめ学校内で実施することの合意を得た上で行なうようにしてください。

授業をする前に、関連する書籍等を読み、十分な知識を得た上で実施することを推奨します。

児童生徒の反応への対応

性に関することに限らず、児童生徒の中には、自分を守るために否定的な発言をする場合があります。同様に児童生徒自身が自身の性自認や性的指向について悩んでいるからこそ以下のような発言をしてしまうことがあるかもしれません。

そのため、以下のような発言があったとしても発言者を指導するのではなく、その発言を受けて性について悩みを抱えている人自身に問題はないことを確認したり、必要事項を伝えたり、全体で考えたりする機会とするのが望ましいです。

「ホモ」「レズ」「オカマ」「オナベ」などの発言があった場合

- ・それらが差別的な用語であることを指摘する。
- ・そのような言葉を使うことで、傷つく人がいることを伝える。

「きもい」「生理的に無理」「生物学的におかしい」などの発言があった場合

- ・「事実としておかしいことでも悪いことでもないし、私もおかしいとは思わないよ」など先生の意見を伝える。
- ・「おもしろいことではないよ」など他の人権課題と同様の対応をする。
- ・自分と異なるという理由で相手を否定していいの、について考えるよう促す。

「トランスジェンダーだから、いじめられても/悪口を言われても、仕方ない」などの発言があった場合

- ・性についてだけでなく、少数派であることを理由に、いじめたり悪口をいったりすることは、「仕方ない」「許される」ことなのか考えるよう促す。
- ・いじめが起こるとしたら、千明（トランスジェンダーであること）が問題なのではなく、周りの環境に問題があることを確認する。

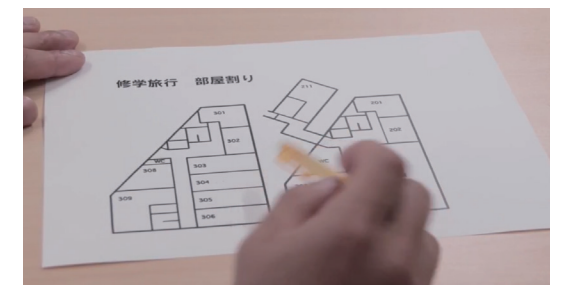
[参考] 認定NPO法人ReBit「中学生向けLGBT」（<https://rebitlgbt.org/project/kyozai/chugakko>）の「指導の手引き」（最終確認2018年11月）

学校・教員の望ましい対応

こころとからだの性に違和感を感じている児童生徒の中には、こころの性と一致しない性別のトイレを利用することや、修学旅行など行事の際の部屋割り・入浴など男女で分けることに不安感・嫌悪感を抱くなど、学校生活に苦痛を感じる場合があります。映像教材の中では、対応の一例として、児童生徒本人の了承を得た上で職員会議で多様な性についての正しい知識を共有し他の教員との連携をしやすいしたり、一部のトイレを誰でも利用可能な「誰でもトイレ」にしたり、修学旅行の部屋割りについて本人と担任が相談をしたりする様子を紹介しています。

上記で挙げた例以外にも、学校生活の中では、制服、着替え、健康診断、敬称（さん/くん）、など、男女で分けてしまう場面が多いため、誰もが安心して過ごせるためには学校環境の整備が必要です。

どのような対応を求めているかは児童生徒一人一人で異なるため、必ず本人とどうしていきたいか相談し、対応していく必要があります。



なぜ学校で多様な性を学ぶ必要があるのか

片岡洋子 千葉大学教育学部教授

みんなが笑っている、その中に

小学校低学年の子どもでも「ホモ」「おかま」と言いながら笑っていることがあります。また、男の子が「オネエ」のしぐさや言葉づかいで笑いをとったり、そして時には教師も一緒に笑っていたりすることはないでしょうか。学校でのそのような場面で、自分は笑われる存在なのだと悩み、ばれないように自分を偽って、がまんして一緒に笑っている子どもがいるかもしれないと想像してみてください。

表に見るように、小学生の時に性別違和を自覚し始めた人がとても多いのです。誰かを傷つけていると思わずに笑っている子どもたちに、学校は、性の多様性を尊重し、性的少数者の人権を侵害しないようにするための教育をおこなう責任があります。

国際社会と日本社会の動向

最近、性の多様性の尊重や性的マイノリティへの理解が求められるようになった背景には、次のようなことがあります。

1 国連などでの国際的な人権へのとりくみ

世界保健機構（WHO）は1990年に同性愛を国際疾病分類から除外しました。また、2006年には、世

界人権宣言・国際人権規約など既存の国際人権に関する規定が「性的指向や性自認についてもそのまま適用可能」であることが確認（ジョグジャカルタ原則）され、2011年に国連人権委員会は「人権、性的指向および性自認」決議を、日本も含めた賛成多数で採択し、性的指向及び性自認を理由とした暴力や差別をなくそうとしています。

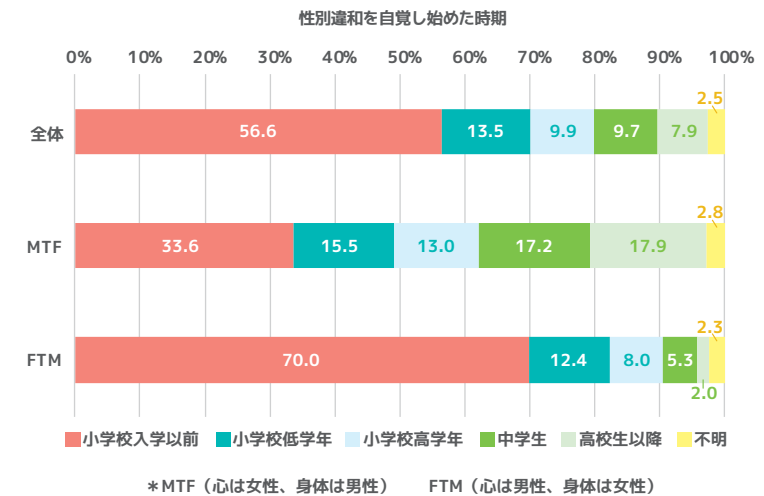
2 自殺予防対策と文科省の対応

性自認あるいは性的指向が多数の人々と異なる性的マイノリティの人々は、自殺念慮を抱く割合が高いため、その自殺予防対策が求められ、「自殺総合対策大綱」（2012年閣議決定）は、その背景にある無理解や偏見等の社会的要因を解消するために学校の教職員の理解を促進するとしました。つまり性的マイノリティへの無理解と偏見をなくすため、学校の役割を位置づけたのです。

文部科学省は2014年1月に全国の学校に「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査」を行い、6月に結果を公表し、学校側に悩みを相談したのは606人で、約6割の学校が、戸籍上の性と異なる制服着用やトイレの使用などについての何らかの配慮をしていることがわかりました。そして文科省は、2015年4月に「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を通知し、2016年4月には「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」（教職員向け）の冊子を公表しました。このように急速に学校での性的マイノリティへの理解の促進と対応が求められるようになってきました。

3 「人事院規則（セクシュアル・ハラスメントの防止等）」の一部改正

2016年12月に、公務員が防止すべきセクシュアル・ハラスメントの「性的な言動」に、「性的指向若しくは性自認に関する偏見に基づく言動」も含まれる



『封じ込められた子ども、その心を聴く 性同一性障害の生徒に向き合う』中塚幹也（2017）ふくろう出版、p.50 より作成

ことになりました。セクシュアル・ハラスメント防止と対策は管理職の責任です。学校の教職員に性的マイノリティ当事者がいるか否かにかかわらず、「性的指向若しくは性自認に関する偏見に基づく言動」が飛び交うような職場環境を管理職は放置してはならないことになりました。

4 いじめ防止に明示

文科省のいじめ防止の通知文書に「性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するいじめ防止」が明示されました（2017年3月16日通知、別添2）。「性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒」がいなければ何もしなくてもいいものではありません。「いないのではなく、言えないのだ」と心がけて、いるかもしれない、あるいは出会うかもしれない性的マイノリティの人たちへの理解を深め、また自分自身が多様な性の中の一人であると理解できるような

教育が求められています。

先生たちに学んでほしい

これまで、大学での教員養成や採用後の研修で、性の多様性について知る機会はあまりなかったと思いますが、まずは先生たちが性の多様性について知って、子どもたちに伝えることが必要です。しかし多くの先生は自分自身がよくわかっていないことを教えることにためらいを感じてしまうでしょう。この映像教材は、中学生を対象にした授業で使えるようにつくられていますが、教員研修や大学の教職科目で模擬授業を行うなど、先生や学生が体験的に学ぶときにも役立ちます。

この教材を通して、性の多様性が尊重される社会とはどんな社会なのか、子どもたちと一緒に学び、考えていくおとなが増えていくことを願っています。

片岡洋子（かたおか ようこ）

専門は、教育学、ジェンダー・人権教育、生活指導論など。子どもたちが自分を表現し相互理解しながら自己形成するための教育実践について研究している。千葉大学教育学部附属小学校長を兼任（2018年11月現在）。